

最強の投資手法「スーパーボリンジャー」「スパンモデル」によるシンプルトレード

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4時間足、1時間足分析を掲載します。

分析は、全て、先週末6月3日の日足終値時点(NY時間午後5時)での判断です。尚、内容は、私の有料情報サービス「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)から一部抜粋(毎日お届けしている中で、月曜日の朝一番の配信分のみ)です。毎日の配信をご希望の方は、ぜひ「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)をご覧ください。(動画配信を毎日行っております。無料お試し期間もあります。)

ところで、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断です。そして、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断です。

◆「マーフィーFX」YouTubeチャンネルはこちらです。

<https://www.youtube.com/channel/UCTQj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々な相場解説を無料動画で視聴出来ます。

<<<主要7通貨相場週足、日足、4時間足、1時間足分析>>>

★「週足」はポジショントレードの大局観把握、

「日足」はスイングトレードの大局観把握、

「4時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、

「1時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。

尚、特に、1時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

そして、トレード戦略の解説は、YouTubeで配信している「実践トレード解説」をご参考にしてください。

■ドル円

<<週足分析>>

当面の高値(131.35円)を付けて以降、「リバーサルパターン」が発生したものの、上値レジスタンスであった前週の高値をブレイクして以降、堅調な展開に戻ったまま。

また、スーパーボリンジャー上は、本格上昇トレンド局面の条件は満たしたまま。
今後も、終値と下値サポートである+1σラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値が+1σラインをキープするかぎり本格上昇トレンド継続となる一方、
終値が同ラインを下回る場合、週足ベースでも調整反落局面入りする点には注意。

<<日足分析>>

調整反騰局面の最終ターゲットである+2σラインに接近中。
遅行スパンが、高値を付けたローソク足を通過するタイミングにある点に注目。
つまりは、一旦は調整反騰の達成感も生じつつあると読む。

<<4時間足分析>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。
すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、
終値が+2σラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。
買いシグナル、及び、赤色スパンの順行パターンの買いサイン点灯中。

<<1時間足分析>>

本格上昇トレンド局面。
終値と+1σラインとの関係を注視したい場面。
すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。
買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

■ユーロドル

<<週足>>

調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存中。
すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が続き、
終値が-2σラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。
「リバーサルパターン」が発生して以降、底堅く堅調に推移しやすい地合いと読む。
「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、(1)1本前の高値をブレイクすること、

(2) 終値が -2σ ラインを上回ること、の両方を満たすこと。

<<日足分析>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が $+2\sigma$ ラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

<<4時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

売りシグナルの順行パターンの売りサイン点灯中。

<<1時間足分析>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると本格的な調整反騰局面入りする。

■豪ドル/ドル

<<週足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
尚、遅行スパンは、安値を付けたローソク足を通過して以降、底堅い地合い継続中。

<<日足分析>>

調整反騰局面の最終ターゲットである+2σラインに到達済み。

目先、本格上昇トレンド局面入りか、レンジ局面入りかの瀬戸際に位置。

売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサインが再点灯中。

ただし、逆行パターンの買いサイン点灯時の最終ターゲットである+2σラインに到達済み。

<<4時間足分析>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、
終値が+2σラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

<<1時間足分析>>

本格下落トレンド局面。

終値と-1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が-1σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

■ポンドドル

<<週足>>

本格下落トレンド局面。

終値と-1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が-1σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

尚、「リバーサルパターン」が発生して以降、底堅い地合いと読む。

「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、(1)1本前の高値をブレイクすること、
(2)終値が-2σラインを上回ること、の両方を満たすこと。

一方、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサインが点灯中。

<<日足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1ラインから+2ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1ラインから-2ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2ラインの上方にて引ける、もしくは、-2ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2ラインをブレイクすること、等々。

<<4時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

売りシグナルの逆行パターンの買いサインが点灯中。

<<1時間足>>

本格下落トレンド局面。

終値と-1ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が-1ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

■ユーロ円

<<週足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、

終値が+2σラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

尚、高値 140.00 円近辺をブレイクしたことで、「リバーサルパターン」が一旦崩れた格好。

また、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサイン点灯時の

猶予期間中の高値水準である上値レジスタンスを巡る攻防に直面していると読む。

<<日足分析>>

本格上昇トレンド局面入りの兆候。

すなわち、目先、(1)遅行スパンが陽転、(2)終値が+2σラインを上回り、(3)バンド幅が拡大傾向となっていること等から、本格上昇トレンド局面入りの可能性が高いと読む。

今後、終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

<<4時間足分析>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

<<1時間足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

■豪ドル円

<<週足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が+2σラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

尚、「リバーサルパターン」発生以降、上値も重い地合いと読むが、直近の高値をブレイクすると、「リバーサルパターン」が崩れる点には引き続き注意が必要。

<<日足分析>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

尚、目先、相場が走りかけているだけに、「リバーサルパターン」発生にも注意して臨みたい場面。

「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、(1)1本前の安値をブレイクすること、(2)終値が+2σラインを下回ること、の両方を満たすこと。

<<4時間足分析>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

<<1時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1σラインから+2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1σラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2σラインの上方にて引ける、もしくは、-2σラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、

4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2ラインをブレイクすること、
等々。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

■ポンド円

<<週足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、
終値が+2ラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

尚、「リバーサルパターン」発生以降、上値も重い地合いと読む。

<<日足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1ラインから+2ラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、-1ラインから-2ラインにかけての価格帯は押し目
買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2ラインの上方にて引ける、もしくは、-2ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2ラインをブレイクすること、
等々。

<<4時間足分析>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、
終値が+2ラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

<<1 時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

★尚、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、

スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断となる。

また、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断となる。

以上です。

◆「マーフィーFX」YouTube チャンネル登録のご案内。

<https://www.youtube.com/channel/UCTOj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々なマーフィー流相場分析、解説が動画で無料視聴出来ます。

◆マーフィー流 FX「実践トレードコーチング専用」ライン@のご案内。

以下より登録できます。

<https://www.span-model.com/line/>

◆「スパンオートトレーダー(SAT)」のご案内。

「スパンオートトレーダー(SAT)」とは、「裁量トレード」と「自動売買(EA)」の良いとこ取りをした、とても便利なトレードツールです。

「スパンオートトレーダー」の詳細、及び、お申込みページはこちらです。

<https://www.xfine.info/satradar/>

◆「スパンオートシグナル」のご案内。

スパンモデルを有効に使いこなす為のきわめて強力なツールです。

スパンオートシグナルのご紹介、および、ご購入用ページはこちらです。

<https://www.xfine.info/sauto/>

以上です。